

朝日新聞

本日の編集長＝堀江隆
電話03-3545-0131 www.asahi.com

英語学ぶならフィリピン

日系企業も開校ブーム

安く英語が学べるフィリピンにいま、日本企業が熱い視線を向けている。

「講師の英語がゆっくりで聞きやすく、慣れるのが早かった」。リゾートで知られるフィリピン・セブ島に短期留学する林崎絵梨さん(31)は、そう話した。林崎さんはハンドバッグなどを販売する「サマンサタバサジャパンリミテッド」(本社・東京都港区)の社員。セブ市の韓国系英語学校「SME」で5月初

めから1カ月、学んだ。海外の店舗での店員教育を任せるため、サマンサタバサは林崎さんら2人をSMEに留学させた。事前にSMEを視察した同社の中岡俊也(46)は

「日本人は欧米人と話すことに気後れしがち。同じアジア人の講師の丁寧な教え方や、短期集中型のカリキュラムが研修に向くと思った」と言う。

SMEの生徒約460人のうち120人ほどが日本人だ。SMEの職員、渡部大輔さん(37)は「企業の英語重視の流れか、今年に入って日本の企業や大学からの

問い合わせが多い」と話す。安い人件費魅力

米国の植民地だったフィリピンでは英語がフィリピン語と並ぶ公用語。英語を小学1年生から学び、家族と英語で話す人も多い。英会話講師の月給が1万〜2万(1万は約1・8円)という人件費も魅力だ。



「QQイングリッシュ」のセブ校でフィリピン人講師のマンツーマン授業を受ける日本人女性＝四倉幹木撮影

これに目を付けたのが、英語学習熱が高い韓国だった。在フィリピン韓国商工会議所によると、韓国人が経営する英語学校はフィリピンで約200校に上る。韓国に続き、日本の英語学校も関心を持ち始めた。

5月、セブ市に英会話学校「QQイングリッシュ」が開校した。親会社はバイク便の「キュー急便」(本社・東京都杉並区)。本業は他の役員に任せ、社長だった藤岡頼光さん(47)が自らセブ島に移住、3年前にイ

ンターネット電話のスカイプを使ったオンライン英会話学習サービスを始めた。

今回の開校で日本などから短く長期滞在の留学生を受け入れ、マンツーマンなどの授業を提供する。夜間に授業が集中するオンラインの講師陣を昼間にも有効活用できる。ネットによるファイル送信の普及でバイク便の売り上げが減る中、社運をかけた新事業だ。

「授業だけでなくフィリピンの生活で実際に使い、会話を高めてもらう(藤岡さん)。そのため日本人の受け入れは全体の3分の1程度に限り、残りは韓国人や中国人ら多くの国籍の生徒を迎えるという。

10社が進出計画

フィリピンへの英語留学をあっせんしている宮村昭生さん(43)によると、マンツーマン授業の場合、オンラインの5分の1程度の費用で済む。「みっちり勉強派から、リゾートを楽しむながら学びたい人ま

で、留学者の希望や年齢層も多様化している。今後も増えるのは間違いない」

マニラで日系企業の進出を手がける経営コンサルタントの三宅信義さん(40)が知る限り、今年、日本から10社ほどがフィリピンでの開校を計画している。内訳は中小の英会話学校、留学支援会社、それに不動産業など異業種からの参入組がそれぞれ約3分の1ずつを占めるといふ。「今年にはフィリピンでの日系英語学校の開校ブーム元年になる」と三宅さんはみる。

(セブ＝四倉幹木)

テーマも募集

つぶやきます

一步先を追いかける「ニュース圏外」。ツイッターの「朝日新聞社会部」アカウント(@Asahi_Shakai)で、こぼれ話をつぶやいています。電子メール(shakaibu@asahi.com)と併せ、テーマ募集中です。

